# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会] (平成21年10月解析分)

# 1 疾患別定点情報

#### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成21年9月分(平成21年8月31日~9月27日:4週間分)

No	疾患	名	月間 発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
1	インフルエンザ		697	1.52	0.00		10	百日咳	35	0.12	0.04	1
2	R Sウイルス感染	⊱症	148	0.51	0.08		11	ヘルパンギーナ	320	1.11	0.42	1
3	咽頭結膜熱		39	0.14	0.55		12	流行性耳下腺炎	198	0.69	0.72	$\Diamond$
4	A群溶血性レン 頭炎	サ球菌咽	128	0.44	0.52	$\Diamond$	13	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.02	
5	感染性胃腸炎		800	2.78	3.46		14	流行性角結膜炎	207	2.72	1.35	1
6	水痘		103	0.36	0.49	$\Diamond$	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病		95	0.33	0.44	<b>Y</b>	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.08	
8	伝染性紅斑		15	0.05	0.13	$\Diamond$	17	マイコプラズマ肺炎	16	0.19	0.22	<b>9</b>
9	突発性発しん		159	0.55	0.74	$\searrow$	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

# (2) 定点把握(月報)五類感染症

# 平成21年9月分(9月1日~9月30日)

No	疾患名	月間 発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	No	疾患名	月間 発生 数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
19	性器クラミジア感染症	48	2.09	2.34	$\langle \rangle$	23	メチシリン耐性黄色ブドウ 球菌感染症	121	5.76	4.95	
20	性器ヘルペスウイルス感 染症	13	0.57	0.61	$\langle \rangle$	24	ペニシリン耐性肺炎球菌 感染症	30	1.43	1.05	$\langle \rangle$
21	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.47		25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.35	
22	淋菌感染症	24	1.04	0.92	$\Rightarrow$						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

#### <u>急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)</u>

急増疾患 RSウイルス感染症(24件 148件)

急增疾患 百日咳(14件 35件) 急增疾患 流行性角結膜炎(82件 207件)

急減疾患 ヘルパンギーナ(745件 320件)

#### 発生記号(前月と比較)

急増減	1 1	1:2以上の増減
増減		1:1.5~2の増減
微増減	$\Diamond$	1:1.1~1.5の増減
横ばい		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1 ~ 12	13 , 14	19 ~ 22	15 ~ 18 , 23 ~ 25	
定点数	43	72	19	23	21	178

# 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類	別	報告数	疾 患 名 (管轄保健所)				
_	類	0	発生なし				
=	類	44	<b></b>				
			西部東保健所(1),東部保健所(7),北部保健所(3)〕				
Ξ	類	23	腸管出血性大腸菌感染症(21) O157(15)[広島市保健所(9),福山市保健所(4),				
			西部東保健所(1),北部保健所(1)],O111(3)[西部保健所],O26(3)[福山市保健所(2),				
			北部保健所(1)〕,細菌性赤痢(2)〔広島市保健所,東部保健所〕				
四	類	5	日本紅斑熱(5)[西部保健所(1),東部保健所(4)]				
五類	全数	10	梅毒(4)[呉市保健所(1),西部保健所(3)],後天性免疫不全症候群(3)[広島市保健所,				
			呉市保健所, 西部東保健所〕, アメーバ赤痢(1)〔西部保健所〕, 急性脳炎(1)〔福山市保健所〕,				
			クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所〕				

# 3 一般情報

# 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症が,県内でも8月21件,9月21件と発生していますので注意が必要で す。

9 0			
病	原	体	腸管出血性大腸菌O157, O26, O111, O128など
症			症状のないものから軽い腹痛や下痢だけで治るもの,さらには頻回の水様便,激しい腹痛,血便とともに重篤な合併症を起こし,時には死に至るものまで症状には幅があります。多くの場合,3~8日の潜伏期間の後に,頻回の水様性下痢で発病し,さらに激しい腹痛,血便を伴います。熱が出ても高熱になることは少ないようです。子どもや高齢者の場合は,溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を発症し,重症化することがあるので,注意が必要です。
感	染紀	圣路	飲食物を介する経口感染がほとんどで,菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。 また,感染力が非常に強いため,患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。
予	防力	法	・ 手洗いの励行とともに,食品は衛生的に取扱い,調理時には器具を洗浄消毒してください。 ・ 水道水の使用が有効的です。井戸水を使用する場合は,塩素消毒を行ってください。 ・ 食品は,75 以上で1分以上,十分加熱調理してください。 ・ レバー等の食肉を生で食べることはひかえてください。

### インフルエンザ患者数グラフ(広島県内の定点報告数)

